

# アメニティ・景観・環境の想像

農村工学研究

編集・発行 財團法人 農村開発企画委員会  
発 売 財團法人 農林統計協会

### 3. 山村：徳島県相生町蔭谷集落

#### (1) 相生町の概況

##### ① 位置

相生町は徳島県の南東部、四国山脈の東南斜面に位置する。四国第2の一級河川那賀川の中流部にあり、東西16.5km、南北14.8km、100.45km<sup>2</sup>を有する山間部の町である。

##### ② 地形

総面積の90%を山林原野で占め、四国第二の高峰剣山を源流とする那賀川が町の中央部を西から北東に蛇行しながら貫流している。那賀川本流とそれに注ぐ谷内川、赤松川、紅葉川、大張谷川、蔭谷川などが連山、山塊の狭間を流れる。これらに沿って平坦地が細長く拓け、町の骨格を形成している。

##### ③ 人口

昭和31年に相生村、延野村、日野村が合併し、相生町となる。合併当時の人口は、6,279人であったが、昭和35年から40年までの人口減少は著しく、1,000人余の減少をみている。ただし、その減少の主原因は那賀川のダム工事に関係している。昭和55年以降は3,900余人と増減は少なく安定している。

##### ④ 土地利用

農用地は376ha(3.7%)と少ない。平坦部には水田が拓け、山麓へかけて畑、樹園地が続き、住宅地と農用地が整然と配置され、農村公園的な景観をかもし出している。たしかに、遊んでいる土地がなく、よく使い込まれた気持の良い町である。

##### ⑤ 生活環境

集落数は全部で36。旧村は3つ、旧延野村には役場・農協・町民会館など町の中心施設が集まっている。公民館の分館は計6館で旧日野谷村に2館、旧相生村に2館、残り2館が旧延野村にあり、旧村単位に均等に分布している。中学校は町に1校、小学校は旧相生村に2校、後は各旧村に1校づつで計4校ある。公共施設は木造建築で、と考える町の方針で、昭和61年には平野小学校の改築の際、文部省の補助単価がRC並みに引きあげられたのをきっかけに木造校舎にしている。西野小学校の体育館も新築

木造である。また役場に隣接した健康増進センターは県下初の木造体育館で、登り梁などに150年生の大径木を使用、山村ならでのメリットをいかした環境づくりを進めている。森林公园工場といって村内に誘致した企業も見事な木造で建築されている。

山林でも森林に触れる機会が少ない子どもたちや



写真-1 那賀川景観



写真-2 日本一の賞をとったオモト



写真-3 森林公園工場

町民のいこいの場の必要から川口ダム湖畔の段丘部に相生森林文化公園（あいあいランド）を昭和62年にオープンさせている。木造建築の森林工房を核に様々な環境整備がなされ、今では町内だけでなく町外からも利用される魅力施設となっている。

町内美化清掃からはじまり、道路沿いのアジサイの植栽などまちぐるみの環境づくりのボランティア活動が活発であり、今後の生活環境面での課題は集落下水道にあると言われている。

#### ⑥ 産業

産業別就業人口割合は、昭和55年の国勢調査によると第一次産業36.5%、第二次産業32.4%、第三次産業31.1%である。

農家総数は昭和50年以降急激な減少はみられないが、この15年間で、専業農家が増加し、1種2種兼業がわずかに減少している。全体みて農家の高齢化による影響があるものの周辺他町村と比較し安定している。

かつて相生町の主産業は林業と薪炭、夏はお茶とアユ漁が主であった。大久保、横石地区では古来より伝承される番茶の生産に今も取り組んでいる。

現在、町の主産物として米以外には緑茶、葉タバコ、ユズ、スダチ、オモト、ワサビ、ショウガ等の農産物。牛肉、牛乳、鶏卵などの畜産物。杉・竹・タケノコ・フキ・シイタケ・花木などの林産物。さらにオバコ・シメガラシ・センブリ等の薬草類が産出する。多品目型農業は戦後からでその中では、日本一の名声を得ている正月用の生花「オモト」をはじめ、「相生茶」「焼杉板」「スダチ」などが、すでに特産品として定着しつつある。

#### (2) 町づくりへの所見

##### 〈評価できる点〉

① きびしい山村地帯にあって「多品目の農業生産」を行っている。

- 20品目以上、15億円以上の生産額。
- 緑茶、番茶、タバコ、肥育牛、種鶏、ユズ、スダチ、ミョウガ、オモト、花、……。

■棚田が耕作放棄されずに、果樹、花木などにう

れ替わる傾向が見られる。これは、農業生産の効率化によるもので、生産性の高い機械化による生産量の増加が、人手不足による労働力の不足によって、耕作放棄が進んでおり、これがまた、耕作放棄地の開拓による新たな耕作地の確保につながっている。

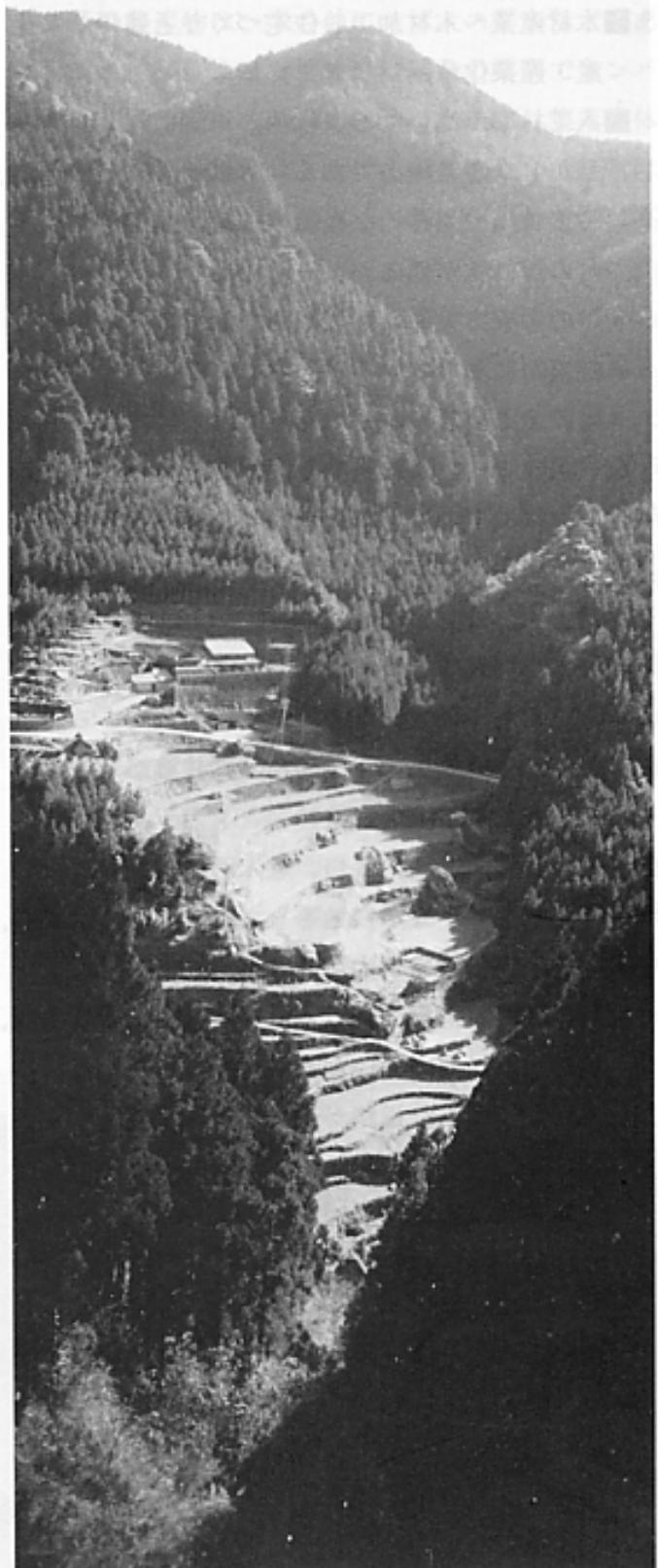


写真-4 内山集落の景観

#### 4) 材料を考える

建物の印象は、形態だけではなく、使用されている建築材料によっても大きく左右される。伝統的な建物はほとんどが木造で建てられたが、最近の公共建築はほとんど鉄筋コンクリート造や鉄骨造になってきた。そして鉄筋コンクリートや鉄骨造の造形が成熟していないために、無機的で親しみにくい建物が増えてきてしまった。そこで、木造の復権がさけばれるようにもなってきた。

ここで、建築材料の選定と形態と建物の持つ性格を考え合わせた方針を検討してみると、次の様な選択肢が考えられる。

- ① 伝統的な木造建築をめざす。
- ② 洋風の木造や新しく開発された木造をとり入れる。
- ③ 鉄筋コンクリート造や鉄骨造によって、地域の伝統的な景観になじませる。
- ④ 鉄筋コンクリート造や鉄骨造によって、従来はない新しい造形をめざす。
- ⑤ 新しく開発された建築材料を積極的に取り入れる。
- ⑥ 地域で産出する素材の活用をはかる。

もちろん、以上の選択肢を一つにまとめて造形する場合もある。



伝統的な木造建築



洋風の木造建築



鉄筋コンクリート造にレンガタイル貼り



鉄筋コンクリート造に石積み



石積みと生垣